

ボランティアが施設のお年寄りらにメイク

くらし七、ライフスタイル

いくつになってもきれいでいたい——。そんな女心をかなえるため、高齢者施設の入居者らに化粧を施すボランティアグループがある。化粧がもたらす効果とは。【倉田陶子、写真も】

●「人々を元気に」

有料老人ホーム「グッドタイムリビング小野」(兵庫県小野市)を16日、メイクボランティアグループ「shine's eye」(シンシン)フレンド倶楽部(同県芦屋市)のメイクセラピスト、酒造志保さん(51)らメンバー3人が訪れた。

化粧をしてもらおうと集まった入居者は15人。「普段は眉を描くだけなの」と緊張した様子で酒造さんの前に座った前田孝子さん(84)は、「紅持ってきたんやけど」とポケットから口紅を取り出した。酒造さんが「きれいな色の口紅ですね」「お肌がツルツルですね」などと声をかけると、

いくつになってもきれいで——

次第にリラックスした表情になる。おしろいをはたき、眉を描き、口紅やお紅を塗っていく。最後に髪の毛を整えて完成だ。鏡をのぞき込んだ前田さんの顔が一気にはこるんだ。「今度の見合い写真に使えますよ」とホームのスタッフが声をかけると、「けっこー、けっこー」と前田さんは声を張り上げて喜びを表した。

入居者の田中雅子さん(89)は「今は太い眉がはやっていゐるんでしょ？」と自分から酒造さんに話しかけた。元女優で普段からおしゃれには気を使っている。趣味のフラダンスをする時には、メイクを变えるという。プロの手でメイクを仕上げてもらい「天国にいるお父さんに見せたいわ」

顔も心も喜ぶ「魔法」

と華やいた表情を見せた。

「こんなおばあちゃんが化粧なんて恥ずかしい」と、照れた様子で尻込みする入居者もいる。そんな時、酒造さんは「口紅を塗るだけで気分が変わりますよ。ちょっとだけ塗ってみましょう」と勧める。初めは硬い表情だった入居者も、会話を交わすうちに「昔は毎日きちんと化粧してたのよ」と打ち明けたり、「こんなにきれいな色があるんやね」とメイク道具に興味を持ったりする。酒造さんは「シニア世代だから化粧をしなくていいということはない。おしゃれなシニアは元気な方ばかり。メイクでたくさんの人に元気になるってほしい」と話す。

酒造さんは宝塚市の特別支援学校などで約20年間、養護教諭を務めた経験を持つ。当時から化粧に興味があり、休みなどを利用してメイクの勉強を続けていたが、「当時は自分のためにメイクを学んでいた」と話す。

●延べ70人の主婦ら

10年前はメイクボランティアを申し出ても「年寄りに化粧なんて必要ない」と施設側から断られることもあった。だが「自分も化粧好き。それが人の役に立つなら」と子育てに区切りのついた主婦などボランティア仲間が次第に増えていった。これまでに延べ70人が活動に参加し、今も約20人がメイクボランティアの活動に参加している。酒造さんは「心の病を抱えて社会復帰を目指す若い女性など、いろんな人をメイクで応援していきたい」と話している。



酒造志保さん(右)にメイクしてもらい笑顔がこぼれる女性
兵庫県小野市で

メールinfo@therapy-s
hin2.com)く。

合わせは、酒造さん(電話0
90・22285・0766、